

インターバンクの声（2015 年 7 月 14 日）

昨日、東京時間の午後 3 時半過ぎ、そろそろ朝の早いロンドン勢が参入して来る時間になって、10 数時間にも及ぶ協議の末、ユーロ圏首脳が財政緊縮策を条件にギリシャへの支援を行うことに合意したとのニュースが飛び込んできた。やや膠着する時間が続いていた市場も直ぐに反応、ドル円は 122 円台中盤から 123 円台へ、ユーロ・ドルも 1.11 ドル台前半からほぼ 1.12 ドルまで上昇した。ただ、ギリシャ支援合意のニュースが伝わってから少し間を置いてからのこの 2 つの通貨ペアの動きは全く異なった。ギリシャ問題が取り敢えず合意されたことで、次は米国の利上げが市場の焦点になるとして、ドル円はさらに 123 円台半ばまで上伸したものの、ユーロ・ドルはギリシャへの対応には依然細かいことを詰めなければならないとの懸念も拡大、上昇する前の水準はおろか、ニューヨーク市場の終盤に至って 1.10 ドル丁度前後まで反落してしまった。市場が本当に米国の年内利上げをテーマにしてドル買いを進めることになるのか微妙な時期だが、もう一つの相場の懸念材料である中国市場の落ち着きを確認することが先決かも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。